

平和と不当解雇撤回



3月始めラジオで「陽光桜が開花」と耳にした。愛媛の支援者の方からその聞きなれない桜のいわれを伺った。川内町の高岡正明（故人）と言う元教師が生徒を戦争に送り出した贖罪の念から、実際に30年をかけて作り出した新品種。愛する生徒たちが散った極寒のシベリアでも亜熱帯のインドネシアでも長く咲き続ける少し濃いピンクの愛らしい花。「戦争はいかん」と言う、氏の強い思いが世界中で花開き、この時期この花を見た人々を笑顔にしているに違いない。ふるさとへの想いを深くした出来事である。航空も平和でなければ発展しない産業だ。原告団も、強行採決された「戦争法」に反対し撤回のために尽力したい。

2月29日18時から始まつたJAL本社を包囲する行動に600名を超える支援者の方々が集まつた。東京湾から吹く強く冷たい風にも負けずJAL経営陣に不当解雇の解決を迫つた。3月7日～11日は本社前で座り込みを続けた。5日間で630

名を超える参加があつた。どちらも5年間で最高の参加者。司法が解雇を容認しても問題は何ら解決していないことをJALに強くアピールし、驚異さえ与えたのではないかと思う。つい言いたい。あの御巣鷹山事故の直前も組合は会社に警鐘を鳴らし続けていた。破綻後、稻盛和夫氏が導入した「利益なくして安全なし」の考え方が否応なく現場に浸透し、史上最高に近い利益を上げ続けても安全の基盤は薄くなつていて。稻盛イズムは公共交通機関とは相容れない経営方針である。735名の尊い犠牲を増やすことはあつてはならない。一刻も早い不当解雇撤回の経営判断を迫りたい！



院内集会に集合した原告3人（2月24日）

客室乗務員正社員化 あとに続こう！

2015えひめ母親大会実行委員長 小渕あけみ

新年のビッグニュースは、当事者のみなさんはもちろん、すべての非正規で働くすべての女性に希望をもたらすものでした。

でも正直あのJALが？と信じられない思いもまだあります。なぜか。映画にまでなった悲惨な航空機事故の顛末や航空業界の実態を知り、にこやかな笑顔をふりまく乗務員の方々の厳しい労働実態などにふれるたびに、暗澹たる思いになつたからです。私はよく飛行機を利用しますが、降りるときは「無事運んでくれてありがとう、お疲れ様」の気持ちをこめてできるだけ御礼を口にします。それだけ、安全に

飛行機を運行する方への信頼は「この時間や空間を共有し、いのちを預けている」そのものなのです。

それにしても、この間の度重なる不当労働行為は、世界からも嘲笑ものですが、なりふり構わずの労働者いじめそのものです。乗客の「いのちの尊厳」にも直接かかわる不当解雇問題は職員だけの問題ではなく、過去の問題でもありません。たたかいは更なる粘りが必要となるでしょう。これからもなお「いのちの尊厳」で連帯し、たくさんの人たちに実態を知らせ、支援の輪を広げていきましょう。

松山市在住 林 恵美